

令和4年度・5年度
モデル事業助成金活用事例集



生涯現役シニア応援センター

ふらっと

令和6年3月

はじめに

地域活動は、活動で見えてくる「地域の課題や社会的資源の発見」のみならず、地域にとって、「こまめで機動的で、気が向けばいつでも・誰でも参加できるような活動」であることが求められています。そのような活動が地域というダウンサイズの中で、あちこちに生まれてくれば、お互いがお互いを支え、さらには、コミュニティの中核としての役割を担うなど、住む人の暮らしと密接に関わりながら、地域全体の生活を支えるまでの役割を果たすようになります。

住む人たち自身の自主的なアイデアから生まれた活動は、活動グループを飛び出し、地域全体の生活をささえるまでに発展し、地域の経済や社会の発展にも大きな役割を果たします。

これからの時代は、地域活動の活性化を図ることで、地域に住む人たちの生活の持続的な安定や、生き生きとした地域社会を目指すことが、より求められてきます。

その中でも、地域の実態に応じた積極的な「地域貢献活動」を促進・継続・発展させていくためには、「地域の中心となるものが人であるということ」と「人のために、人のための地域である」ことを大前提とし、地域に住む様々な人たちの連携が重要です。

このたび、県内各地において、地域活動に取り組まれている方々の活動内容を紹介する「モデル事業助成金活用事例集」を作成しました。

この事例集は、様々な形の「連携」に着目し、地域活動の活性化につながる事例を集めていますので、県内各地で活動に取り組まれている方や、今後、新たに取り組んでいこうと考えているの方々にとって、今後の活動の一助となれば幸いです。

令和6年3月



1. 【索引】

活動分野一覧

① 高齢者福祉・健康づくり	3ページ
② 地域交流・花壇づくり	6ページ
③ 居場所づくり・地域交流	9ページ
④ 食育・伝統文化継承	12ページ
⑤ 世代間交流・美化活動	15ページ
⑥ 環境保全・地域再生	18ページ
⑦ 健康づくり・地域おこし	21ページ
⑧ 防災・地域安全活動	24ページ

2. 【事例集について】

【事例集の位置づけ】

モデル事業助成金を活用して単位クラブが実施した事業を対象に、事業概要や活動に対する考え方、実働に向けた取り組み方を記載し、類似の活動を行う場合の計画の立て方、推進するうえで気を付けるべき点などを、参考にさせていただくことを目的としています。

掲載したモデル事業は、いずれも実施主体によって意欲的に取り組まれているものですが、必ずしも成功事例として取り上げたものではなく、取り組んだ活動環境によって、克服すべき課題や成果、効果を生む工夫も異なることに留意しつつご覧願います。

目次

3. 【事例集の構成】

事例集は各2ページで以下のような構成となっています。

①申請団体名		②分野		⑨事業の成果と効果	
③事業名称					
④事業概要				⑩今後の展開・課題 (Next Step)	
⑤事業目的					
⑥事業目標				⑪ここがポイント!	
⑦事業の方向性					
⑧事業の実行計画					

①	申請団体名	単位クラブ名を記載しています。
②	分野	各単位クラブが設定した分野を記載しています。
③	事業名称	事業の名称を記載しています。
④	事業概要	事業の背景や経緯を記載しています。
⑤	事業目的	事業の目的やビジョンを記載しています。
⑥	事業目標	事業目的を達成するために具体的に設定した指標を記載しています。
⑦	事業の方向性	目的の達成に沿ってどのような方向性で取り組んだのかを記載しています。
⑧	事業の実行計画 ・期間（いつまでに） ・対象（何を） ・役割（誰が） ・展開（どのように） ・評価指標（できたかどうか）	事業の方向性に基づいて目標を達成するために取った具体的な計画を記載しています。 ・ 取り組む期間や期限（いつからいつまでの間で行ったか記載しています。） ・ どのような層（事）に向けて取り組んだのか（設定した関係者を記載しています。） ・ 施策における細かな役割（だれが・なにを・誰に・どのように行ったか等を記載しています。） ・ 施策ごとの展開（どのように展開したか記載しています） ・ 現状把握としてモニタリングすべき施策レベルでの評価指標を記載しています。
⑨	事業の成果と効果	成果（直接的な良い結果）、効果（間接的な良い結果）を記載しています。
⑩	今後の展開・課題（Next Step）	当事業に隣接する事業への着手・展開・推進方法を記載しています。
⑪	ここがポイント！	事業全体における重要なポイントを記載しています。

事例集
高齢者福祉・健康づくり

①申請団体名	真岡市 大谷福寿会	②分野	高齢者福祉・健康づくり
③事業名称	高齢者が安心して元気に暮らせる地域づくり ～認知症とフレイル予防～		
④事業概要	<p>【高齢者の孤立化防止と認知症・フレイル予防】</p> <p>①見守り活動として『大谷支え隊』を新たに発足し、月1回高齢者宅を訪問し、コミュニケーションをとる</p> <p>②認知症およびフレイル予防活動として、『元気アップカフェ みんなの広場』を大谷公民館にて月1回開催する</p>		
⑤事業目的	<p>【高齢者が安心して元気に暮らせる地域づくり】</p> <p>地域の高齢者の生活の様子より、下記の2点を事業目的とした</p> <p>①高齢者の孤立化防止</p> <p>②認知症およびフレイル予防の対策</p>		
⑥事業目標	<p>【定量目標】</p> <p>①見守り活動 ⇒ 1回/月</p> <p>②元気アップカフェ活動 ⇒ 1回/月</p> <p>③地域への情報発信 ⇒ 2回/年</p>	<p>【定性目標】</p> <p>会員の日頃の考え方や、活動の仕方が変わっていくのを、アンケートやヒアリングにより捉える</p>	
⑦事業の方向性	<p>【お互いに支え合い、顔が見える地域づくりを目指す活動】</p> <p>超高齢化が進む大谷福寿会の会員の方々の孤立化・孤独化を防ぐため、</p> <p>①自宅に閉じこもりがちな方に対して、傾聴と活動資料配付で“ふれあい交流”や“地域行事”について、『一緒に参加しよう』と伝える</p> <p>②認知症予防体操等でより心身の健康を保ち、お互いに支え合い、協力し合える地域づくり、地域共生社会を目指す</p>		
⑧事業の実行計画	<p>下記①、②について役割担当などを決め、会員全体で情報共有する。</p> <p>【実行計画】</p> <p>①見守り隊→曜日・時間・高齢者訪問先・訪問者を決め、地域行事参加を促すために持参資料を準備する</p> <p>②認知症・フレイル予防→曜日・時間を決める 開催場所の確保、脳トレ・ゲーム・英会話の担当者を決める</p> <p>【拡散させるために意識した項目】</p> <p>③活動を市のHPや社会福祉協議会HP・広報誌などへ掲載したり、福寿会会報を配付する</p> <p>【優先して把握すべき評価指標】</p> <p>・見守り隊・元気アップカフェ開催回数 年10回 / 地域への情報発信 年2回以上</p>		

⑨事業の成果と効果

【事業の成果】

<定量目標> 達成

指標名	目標	実績	達成率
見守り隊	1回/月/年10回 (8、1月は活動計画なし)	9回	100%
元気アップカフェ	1回/月/年10回 (8、1月は活動計画なし)	9回	100%
地域への情報発信回数	2回/年	4回	200%

【事業の効果】

- ①高齢者宅訪問では、家に閉じこもりがちだった方が、訪問回数を重ねるごとに前向きになり福寿会会員に登録するまでになった
- ②元気アップカフェでは、体調の状況により参加出来なかった方がいるにも係わらず、8割以上の方が毎月参加した。元気であれば、全員参加出来た。次年度以降も継続希望者が7割を超えている

⑩今後の展開・課題
(Next Step)

【今後の展開】～「活動へのまきこみ」と「他クラブへの展開」

- ・活動継続希望者が7割を超え、今後も大谷福寿会の事業として継続予定
- ↓
- ・地域資源(市町老連事務局、民生児童委員、地域包括支援センターなど)を活用
- ↓
- ・近隣の老人クラブへ活動を広げる

【課題】～「持続的な活動のための体制づくり」

- ・若い会員の入会促進およびリーダー育成を図る際のアプローチ方法

⑪ここがポイント!

☆事業の開始時・展望時・拡散時に行うこと☆

【開始時】

- ①行政の事業を良く理解し、積極的にかかわる
- ②活動計画・役割の決定・活動場所の確保等、会員が参加しやすい環境をつくる

【展望時】

- ①地域にお住まいの方々の『心身の健康への貢献度が高い』ことを伝える
- ②地域の方が抱える不安に、組織単位で一緒に向き合っていく

【拡散時】

- ①連携先を多く持ち、活動の充実を図る(市町老連事務局、民生児童委員、地域包括支援センターなど)
- ②会報・地区広報誌・市HP・地域新聞などを活用し、活動の活性化を図る

《気づいた視点》

傾聴・寄り添い・相手の立場に立った活動

《気づいた行動》

かかわる×信頼×相談×誘う×前向き

事例集
地域交流・花壇づくり

①申請団体名	那須烏山市いきいきクラブ連合会 日野町いきいきクラブ	②分野	地域交流・花壇づくり
--------	-------------------------------	-----	------------

③事業名称	日野町地区ふれあいコミュニティ活動
-------	-------------------

④事業概要	<p>【三世代参加型で行う地域行事と農産物栽培の実施】</p> <p>①定期的な地域行事の実施 三世代が参加できる内容とした学校の夏休み期間に実施する夏のフェスティバル、ラジオ体操及び伝統行事の餅つき大会、ミニ門松づくり、どんど焼き並びにグラウンドゴルフ、輪投げ等によるスポーツ競技大会</p> <p>②農園、花壇での共同作業 三世代が共同して行う、子ども農園を活用したジャガイモ、さつまいもの栽培作業及び烏山大橋公園、県道の花壇の植栽作業</p>
-------	--

⑤事業目的	<p>【三世代交流の活性化による地域のつながりの再生】</p> <p>町内の世代間のつながりが希薄化している状況を改善するため、三世代参加型の活動を通し、ふれあいのある地域コミュニティづくりを目指す</p> <p>①伝統的行事の継承と団結力、助け合いの基盤づくり ②「子ども農園」での栽培体験で地域を知ってもらう ③「烏山大橋公園」の美化活動でコミュニティづくり</p>
-------	---

⑥事業目標	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【定量目標】</p> <p>①参加人数 ⇒ 10人以上／1回 ②地域行事実施 ⇒ 6回／年 ③農園・花壇共同作業 ⇒ 5回／年 ④活動発信 ⇒ 4回／年</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【定性目標】</p> <p>ー活動への参加意識の変化を調査ー クラブ員の地域活動等に期待する意識をアンケートで調査する</p> </td> </tr> </table>	<p>【定量目標】</p> <p>①参加人数 ⇒ 10人以上／1回 ②地域行事実施 ⇒ 6回／年 ③農園・花壇共同作業 ⇒ 5回／年 ④活動発信 ⇒ 4回／年</p>	<p>【定性目標】</p> <p>ー活動への参加意識の変化を調査ー クラブ員の地域活動等に期待する意識をアンケートで調査する</p>
<p>【定量目標】</p> <p>①参加人数 ⇒ 10人以上／1回 ②地域行事実施 ⇒ 6回／年 ③農園・花壇共同作業 ⇒ 5回／年 ④活動発信 ⇒ 4回／年</p>	<p>【定性目標】</p> <p>ー活動への参加意識の変化を調査ー クラブ員の地域活動等に期待する意識をアンケートで調査する</p>		

⑦事業の方向性	<p>【三世代が参加しやすい活動】</p> <p>①活動協力団体の、自治会、子ども育成会、縁（えにし）の会（地区のお助け隊）と連携、協働し、協議会を立ち上げる ②世代ごとの役割を明確にした活動スケジュールの作成 ③地域への周知を各団体ごとに行うことで、告知頻度を上げ参加に結びつける</p>
---------	---

⑧事業の実行計画	<p>【いつまでに、なにを、誰が、どのように】</p> <p>①年間活動開催計画（実施日、時間、場所、活動の概要など）を、年度開始1か月前までに設定 ②告知スケジュール（告知日、告知方法、告知先など）を、実施日1か月前までに設定 ③活動協力団体等からなる協議会の開催を、毎月設定 ④関係団体への周知支援依頼を、実施日1か月前までに設定</p> <p>現状把握すべき評価指標 地域行事実施 年6回 / 農園・花壇共同作業 年5回 / 活動発信 年4回</p>
----------	--

⑨事業の成果と効果

【事業の成果】

- ①地域行事実施 目標6回/年 ⇒ 実績7回/年 達成
 - ②農園・花壇共同 目標5回/年 ⇒ 実績7回/年 達成
 - ③活動発信 目標4回/年 ⇒ 実績7回/年 達成
- <活動の詳細は次のとおり>

事業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	参加者人数
①	夏のフェスティバル				○								104名
	夏休みラジオ体操				○								延べ300名 (10回開催)
	餅つき大会								○				97名
	ミニ門松づくり								○				26名
	どんど焼き									○			34名
	スポーツ競技大会										○	○	
②	花壇整備		○		○		○		○				延べ95名 (4回開催)
	農作物栽培			○			○					○	延べ89名 (3回開催)
③	活動発信			○	○	○	○		○				7回発信

【事業の効果】

- ①子どもたちの参加が前年比で増加（58人⇒74人）。子どもたちの地域行事への関心が高まった
- ②子どもたちへのインタビューでは地域行事への積極的な提案が行われた
- ③住民から花壇管理の申し出があるなど環境美化活動への賛同者も現れてきている
- ④クラブ員の活動に対する満足度がアップ（55% → 67%）

⑩今後の展開・課題 (Next Step)

【今後の展開】〈三世代参加型の活動の輪の拡大〉

- ・事業の成果と効果より、三世代参加型の活動を継続する
- ・隣接地域への活動効果、メリットの告知で同種活動を広げる
- ・隣接地区との活動交流を行う

【課題】〈継続していくための体制づくり〉

- ・参加していない方との交流方法
- ・財源の確保

〈対策（案）〉

- ・役員が活動のメリットの告知する
- ・自治会、子ども育成会に対し、負担金の増額を依頼する

⑪ここがポイント!

【スタート時、展開時、拡散時のポイント】

- ①地域課題への住民の連携が強いこと
 - ・昔から住民の結びつきが強い地域だったため上手くいった。もともと強い連携のある自治会を中心に組織し、新しい住民や団体をまきこむ方向がいいのではないか
- ②毎月、組織会議を行うこと
 - ・事業活動の企画し、情報の共有する
 - ・負担が一か所に集中しないよう役割分担する
- ③既存行事を三世代化すること
 - ・個別団体で行っている行事を、三世代がそれぞれ役割を持って参加できる内容に組み替えることで、三世代参加型行事とする

-地域の課題・問題に協働で取り組むために-

《気づいた視点》

子どもの参加意識を高め、子育て世代の参加を促す
子どもができる作業を複数入れた活動メニューをつくる

《気づいた行動》

関係団体と連携し、組織活動として行うが、役員が役割分担等に配慮を行う必要がある

事例集
居場所づくり・地域交流

①申請団体名	日光市老人クラブ連合会 日光地区連絡協議会	②分野	居場所づくり ・地域交流
③事業名称	みんなでペタンク！ 居場所づくりと世代間交流で元気にいきいき		
④事業概要	【地域に向いて実施する「居場所づくり」と「世代間交流活動」】 <ul style="list-style-type: none"> 中央に来れないならば地域に向いて行事を行う 小来川地区の5つの老人クラブの活動復活を支援するため、少人数でもできるペタンクを取り入れた居場所づくりを行う 居場所を活用したスポーツや食を通した世代間交流活動を行う 		
⑤事業目的	【活動の拠点となる居場所づくりと、クラブ員の活動意欲の高揚】 中央会場で行われる行事に参加できないクラブ員が増えている状況を改善するため、小来川地区に向いて活動の拠点となる居場所づくり、居場所を活用した行事を行うことでクラブ員の活動意欲の高揚を目指す <ul style="list-style-type: none"> ペタンクを取り入れた居場所づくりを行うことで、クラブ員のフレイル予防や活動に参加し易い環境づくりにつなげる 居場所を拠点として、子ども育成会や障がい者施設等との世代間交流を行うことで、地域内のクラブ員の活動意欲の高揚につなげる 		
⑥事業目標	【定量目標】 ①ペタンク実施回数 ⇒ 2回/月 ②ペタンク参加人数 ⇒ 25人/回 ③交流会実施回数 ⇒ 1回/月 ④交流会参加人数 ⇒ 30人/回	【定性目標】 <ul style="list-style-type: none"> 気軽に集まれる居場所を作る。 ペタンク交流・世代間交流で活動する楽しさ（活動の満足度）を確認する 	
⑦事業の方向性	【居場所を活用した行事運営の組織化】 <ul style="list-style-type: none"> 小来川地区長寿会役員会においてこの活動の内容を説明し理解を求めるとともに、地域民生・児童委員の協力を求め、この事業の周知徹底を図る 行事運営に当たり、小来川地区老人クラブとの組織化を図り、それぞれの役割分担を明確にし、取り組む 居場所を活用した世代間交流は、地元の子ども育成会、障がい者福祉施設等への働きかけを行う 		
⑧事業の実行計画	【いつまでに・なにを・誰が・どのように】 ①年間スケジュール（実施日、対象者、場所、活動の概要など）を年度当初の地区役員会で提示及び周知する ②居場所の設置場所を、小来川グラウンド・ゴルフ場施設とすることを周知する ③居場所の拠点施設には、いつでも使用できるようペタン道具等を常備する ④5月に年間ペタンク実施チラシ（毎月第3水曜日に実施）を作成し地区老人クラブに配布する ⑤各交流会チラシを開催の1か月前までに作成し、老人クラブ、学校、民生・児童委員に配付する 現状把握すべき評価指標 ペタンク実施 2回/月 世代間交流会 1回/月		

⑨事業の成果と効果

【主な事業の成果】
〈定量目標〉

No.	指標名	目標	実績	達成度
1	ベタンク実施	2回/月	5回	20%
2	ベタンク参加人数	25人/回	延べ66人	53%
3	交流会実施	1回/月	4回	33%
4	交流会参加人数	30人/回	延べ145人	120%
5	活動発信	4回/年	2回	50%

【事業の効果】

- ①事業参加者の働きかけで、3つの老人クラブにおいてクラブ活動の再開、1つの老人クラブで会員増加につながった
- ②事業参加した民生・児童委員の働きかけで、老人クラブ未設置地区における老人クラブ設立の気運上昇につながった
- ③交流先を探すため、地域団体を調べていたところ、「日光明峰高校の「日光学」で「高齢期における生活ニーズ」をテーマとする校外学習事業があることを知り、2年間関わることが出来た事は、世代間交流の良いきっかけとなった
- ④クラブ員の活動の満足度（アンケート結果）（事前）60% → （事後）79%

⑩今後の展開・課題
(Next Step)

【今後の展開】

- ・小来川地区での「居場所づくり」「交流会」は来年度以降も継続していく
- ・協議会が地域に出向いて行う活動を、別の地域でも実施していく。来年度は、清滝地区・細尾町地区で交流会を実施する予定

【課題】

- ・小来川地区における活動の運営方法
- ・財源の確保

〈対策（案）〉

- ・協議会と地区老人クラブとの役割分担
- ・参加する人の受益者負担と小来川地区自治会連合会からの補助金の支援

⑪ここがポイント!

【スタート時、展開時、拡散時のポイント】

- ①根気よく活動すること
 - ・参加者が少ないと活動が制限されたり、参加者の意欲が低下しがちであるが、少ない人数でも実施できること示すことで、活動に住民をまきこめるので、参加者がすくなくとも根気よく活動する
- ②参加者のニーズを確認すること
 - ・参加者から次回にやりたいことを伺い、多数決で方向性を決めて置くことで、次回の参加者の確保につながる
- ③確実に実施できる目標とすること
 - ・地区老人クラブ及び協力団体等からの協力が得られる範囲内で、ハードルの高い目標を設定しない。確実にできる目標とする
- ④成功体験を積み重ねること
 - ・「楽しかった」「うれしかった」をみんなで共有することで、次のステップへ
- ⑤若い世代と交流すること
 - ・高校生との交流は、双方にとって得難い体験となったことから、交流先を地域の多様な団体から探してみる

-地域の課題・問題に協働で取り組むために-

〈気づいた視点〉

遠距離で行事参加が困難なら、地域に出向いて行う
大人数の活動ができないなら、
少人数でできるものを探す

〈気づいた行動〉

根気よく × 楽しい体験 × みんなで共有

事例集
食育・伝統文化継承

①申請団体名	小山市老人クラブ連合会（思桜会） 喜沢中部喜楽会	②分野	食育・伝統文化継承
--------	-----------------------------	-----	-----------

③事業名称	作って！ 食べて！ 交流して！ 未来につなごう桑の葉料理
-------	---------------------------------

④事業概要	<p>【地区特産の桑の葉を使った “①料理教室の開催” と “②地域イベントへの参加”】</p> <p>①料理教室の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 桑の葉で次世代につなぐオリジナルレシピを考案 ・ 健康に良い（血糖値低下や糖尿病予防が期待）とされている桑の葉料理の継承 <p>②地域イベントへの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日枝神社祭礼、公民館祭り、常設サロンに出展し “桑の入りたこ焼き体験会” を実施 ・ 「地域の心意気」で人を繋ぎ、疎外感や孤立感を弱め共感や信頼からなる地域を築く
-------	--

⑤事業目的	<p>【桑の葉料理の継承と健やかで活力ある地域社会の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “桑の葉料理レシピや健康効果” の普及・啓発 ・ 特色ある地域文化で地域の魅力を倍加 ・ 多世代間交流の誘因と地域の賑わい・隆盛
-------	--

⑥事業目標	<p>【定量目標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>料理教室開催回数（講師養成）</td> <td>4回以上／年</td> </tr> <tr> <td>料理教室開催回数（一般普及）</td> <td>4回以上／年</td> </tr> <tr> <td>料理教室参加人数（一般普及）</td> <td>20人以上／回</td> </tr> <tr> <td>地域への情報発信回数</td> <td>4回以上／年</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	目標	料理教室開催回数（講師養成）	4回以上／年	料理教室開催回数（一般普及）	4回以上／年	料理教室参加人数（一般普及）	20人以上／回	地域への情報発信回数	4回以上／年	<p>【定性目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 桑の葉料理の生活習慣化 ・ 健康づくり ・ 生きがいづくり ・ 活動の魅力度アップアップ
	指標名	目標										
料理教室開催回数（講師養成）	4回以上／年											
料理教室開催回数（一般普及）	4回以上／年											
料理教室参加人数（一般普及）	20人以上／回											
地域への情報発信回数	4回以上／年											

⑦事業の方向性	<p>【 “古くから健康維持に良い” とされる桑の葉を “新たなレシピで普及” させる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当地区は、桑の葉（多くの栄養素が含まれ、生活習慣病予防効果も期待）を古くから生産 ・ 近年は桑の葉を使った料理を知る人も少なくなり、存続の危機にある ・ 子育て層にも人気があるレシピで “桑の葉料理” の魅力を発信
---------	--

⑧事業の実行計画	<p>単位クラブ内で下記①～⑧までの役割と担当を決め、全員で進捗状況を共有する</p> <p>【いつまでに・なにを・誰が・どのように】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①料理教室の “指導者募集と育成” ②料理教室の “開催場所確保” （小山市桑マルベリー館、祭事会場、常設サロン等） ③料理教室の “内容・レシピ検討会議” ④料理教室の “一般参加者募集” （自治会回覧板等） ⑤料理教室の “定期開催” （グループ編制、一緒に作って・食べる・交流する） ⑥思桜会桑支部及びNPO法人等への出前料理教室などの開催 ⑦活動内容の発信 （行政SNSや連合会広報誌等での周知） ⑧新料理教室開催の内容検討 <p>【優先して把握すべき評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 料理教室開催回数 年4回以上 / 地域への情報発信 年4回以上等
----------	---

⑨事業の成果と効果

【事業の成果(定量目標)】
 ・料理教室開催回数、・参加人数、・情報発信回数

指標名	目標	実績	達成率
料理教室開催回数(講師養成)	4回以上/年	6回	150%
料理教室開催回数(一般普及)	4回以上/年	7回	175%
料理教室参加人数(一般普及)	20人以上/回	25人	125%
地域への情報発信回数	4回以上/年	7回	175%

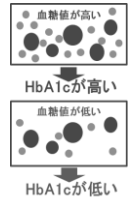
【事業の効果(定性目標)】
 ・地域イベント出展時の来場者数は毎回100人を超え、桑の葉料理の生活習慣化への波及と活動の魅力度アップ、会員の健康づくりや生きがいづくりに繋がっている

◇桑葉茶を(小さじ半分の量を湯飲み茶わんで1日3~4回)飲み続けた方の、*個人別HbA1c推移。

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	Hさん	Iさん	Jさん	Kさん	Lさん	※Mさん	※Nさん
2022年12月	7.0	6.8	7.2	8.5	5.2	7.4	8.9	7.5	8.5	7.4	7.2	8.5		
2023年3月	6.6	6.3	6.8	7.4	5.1	6.4	6.2	5.5	6.8	6.8	6.8	6.8	7.8	9.0
3か月間の減少値	-0.4	-0.5	-0.4	-1.1	-0.1	-1.0	-3.7	-2.0	-1.7	-0.6	-0.6	-1.7	-	-
2023年9月	6.4	6.3	6.4	7.0					7.0	6.6	6.4	6.6	6.8	7.0
6か月間の減少値	-0.6	-0.5	-0.8	-1.5	-	-	-	-	-1.5	-0.8	-0.8	-1.9	1.0	2.0

※HbA1c(ヘモグロビンA1c)とは、過去1か月程度の血液中の糖分の状態を評価する指標
 ※人間ドック学会のHbA1c基準値 5.5

※Mさん、Nさんは2023年3月飲用開始



⑩今後の展開・課題 (Next Step)

【今後の展開】

- ・地元日枝神社「秋の例大祭」に「桑の葉入りたこ焼きブース」を出店
- ・150人を超えるお客様が来店
- ・マルベリー館祭りでは、120人分を開始1時間で完売
- ・地域イベントを利用した「桑の葉効能(HbA1c改善効果)認知向上策」は効果的に作用

- ・上記の事からも、今後は「発信者側の告知と受信者側の記憶頼み」という一方通行の期待に依存せず「一緒に同じ事を行う参加体験型」による発信がより効果的と判断
- ・地区内外への行事に参加し、「体験型桑の葉料理とHbA1cの話題提供」を実施

【課題】

- ・地域の人の中で受け継がれてきた生活文化は、人の生活に深く関りがある
- ・地域に受け継がれてきた伝統は、愛着や誇りを培い、コミュニティを形成する力があることを、理解し広めていくことが前提

- ・そのうえで、桑の葉料理を作って! 食べて! 交流して! 次世代に伝える
- ・桑の葉料理を子育て世代に広め、桑の葉と生きてきた地域のこころを未来につなげる

⑪ここがポイント!

☆事業の開始時・展開時・拡散時に行うこと☆

【開始時】※⑧事業の実行計画欄も参照

- ①定期開催までの実行計画を立案
 - ・指導者の募集→開催場所の確保→レシピの検討会議→一般参加者の募集→定期開催

【展開時】

- ②人材育成とPRを実施
 - ・初めにクラブ内で講師を複数育てる講習を実施
 - ・講師育成後は、地域の自治会回覧版などでPR
 - ・幅広く地域の方々を対象とした「桑の葉料理教室」を開催

【拡散時】

- ③地域イベントへの参加
 - ・地域の祭事や行事等の機会を捉えて「桑の葉料理ブース」を出展
 - ・桑の葉の食用や利用の幅を広めることを、地域交流の起点として設定

【活動の基本】

- ・気軽に話せる交流しやすい場づくり
- ・初めて会う人同士でも自然と輪の中に入れる調理実習
- ・自然とコミュニケーションを生み出す、その場その場で行う調理のやりとり

-地域の課題・問題に共同で取り組むために-

《気づいた視点》
 場づくり×気軽体験×会話

《気づいた行動》
 しらせる・あつめる・たのしむ・はっそう・みとめる

事例集
世代間交流・美化活動

①申請団体名	芳賀町シニアクラブ連合会	②分野	世代間交流 美化活動
③事業名称	復活！シニアと子どもの交流で『みんなが元気！』		
④事業概要	<p>【連合会で取組むく途絶えていた世代間交流の復活>とく美化活動による地域貢献>】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内3つの学童クラブ児童との輪投げ・グラウンドゴルフ・むかし遊びなどでの交流 ・ 学童内の花壇づくりや学校周辺のカーブミラー清掃を通した地域社会の一助となる活動 		
⑤事業目的	<p>【顔見知りになることでお互いに頼れる存在を地域に作る共生社会の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シニアクラブの社会貢献や子ども達との交流を軸に地域のつながりを深める ・ 子どもも高齢者も、みんなが安心して暮らせる大好きな地域にする 		
⑥事業目標	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏、冬、春やすみ期間中の世代間交流の開催回数（2回以上×3クラブ/年） ・ 学校周辺の美化活動、カーブミラー清掃（2回以上×3クラブ/年） ・ 地域への情報発信回数（4回以上/年） <p>【定性目標】（期待される効果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シニアクラブの社会貢献活動や子どもたちとの交流による地域とのつながり 		
⑦事業の方向性	<p>【世代間交流と美化活動で多世代間の互恵的関係性を復活させる活動】</p> <p>※互恵的關係…お互いがお互いを尊重し必要とする関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちは、一緒に遊び・学び、高齢者は、教えたり・教えられたりする ・ 子供達が地域で育っていく手助けをする ・ 高齢者の心身の健康維持向上にも取り組む 		
⑧事業の実行計画	<p>下記①～⑥までの役割担当を決め、クラブ員で共有する。</p> <p>【いつまでに・なにを・誰が・どのように】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各学童クラブ毎に単位クラブを振分け、運営参加者を募集 ②学童クラブと実施日程の調整（スケジュール、実施内容作成） ③単位クラブとの打ち合わせ実施 ④グラウンドゴルフ、輪投げ、昔遊び等の役割分担 ⑤花壇作り、カーブミラーの清掃の実施 ⑥栃木テレビ、はがチャンネル、社協広報紙、町シニア連広報紙、真岡新聞等により活動内容発信 		

⑨事業の成果と効果

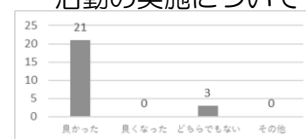
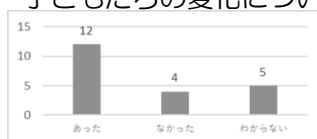
【事業の成

指標名	目標	実績	達成率
開催回数（グラウンドゴルフ、輪投げ、昔遊び）	2回以上×3クラブ/年	9回	150%
美化活動、カーブミラー清掃	2回以上×3クラブ/年	26回	433%
地域への情報発信回数	4回以上/年	6回	150%
会議・打ち合わせ回数（連絡調整含）	-	10回	-

【事業の効

- ・子どもたちも会員も家族や学校以外にも人間関係が広がった
- ・会員は学童の先生との会話で今の学校を知ることに繋がった
- ・交流会は会員の得意なことを披露する場となり、子ども達から元気がもらえた
- ・子どもたちと会員の相互が、地域への興味・関心を持つきっかけとなった
- ・会員が地域資源との関係性が持て、地域の防災・防犯意識の高揚に繋がった
- ・学童クラブの指導員へのアンケートで約6割の人が「子どもたちの変化」があったと回答

学童クラブ
指導員への
アンケート結果
(抜粋)



⑩今後の展開・課題 (Next Step)

【今後の展開】

- ・モデル事業終了後も、活動内容を整理し継続
- ・今後も交流する機会を作り“楽しく”関わることで、その機会を“継続”すること

【課題】

- ・この事業の目的、背景、目標等を説明し、合意形成と開始までは時間を要する
会長には何度も説明を行ったり、会員には広報紙での事業の周知を行ったが、事業の活動意図を理解できず参加している会員には、ただ事業が増えて“負担”に感じてしまった
- ・周知を継続すること
この活動から、シニアクラブをただの“お楽しみ会、愛好会”ではなく、奉仕活動や地域貢献も行っている団体であることのアピールが必要

☆事業の開始時・展開時・深化時に行うこと☆

※芳賀町シニアクラブ連合会全体として町全域で取り組んでいる活動
活動の町内拡散よりも、より深化・進化させていく方法を取っている

【開始時】

<事前調整の実施>

- ・各单位クラブ会長及び会員への周知及び理解を得ること
- ・学童児童クラブ（3クラブ）、小学校（3小学校）、町担当課への概要説明
- ・詳細な交流活動内容、担当するシニアクラブの決定（3地区に分ける）
- ・用具の調達（GG、花植え、カーブミラー清掃）
- ・カーブミラー清掃活動先進地調査（上三川町）
- ・現地調査（カーブミラー数、プランター設置場所等）

【展開時】

- ・会員の得意な事を活かして地域のために貢献できる場を用意すること
- ・子どもを対象とし地域の次世代育成に関われるという充実感を伝えること
- ・会員と関係機関に交流内容の説明をし、実施内容や日程の調整をすること

【深化時】

- ・美化活動で地域貢献及びシニアクラブをアピール
- ・地域の顔見知りを増やし「お互い様」の心を育む

-やってみて気づいたこと-

- ・知り合うこと
- ・つながること
- ・関わることで同じ空間を過ごすこと

⑪ここがポイント!

事例集
環境保全・地域再生

①申請団体名	とちぎ蔵の街シニアクラブ連合会 岩舟支部 静寿会	②分野	環境保全・地域再生
--------	-----------------------------	-----	-----------

③事業名称	<p align="center">"環境美化から始めるマインド・リセット!!" - 静和川流域連携キャラバン - <Change mind set project></p>
-------	---

④事業概要	<p>【地区を流れる静和川流域の環境美化活動と地域再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月に一度、下流に数百メートルずつ場所を移しながら実施 ・2年かけて約9キロ先の渡良瀬遊水地を目指す ・実施場所周辺の自治会や企業などにも、その都度参加を呼びかける <p>-流域一体の連携や地域のつながりの再生を目指す-</p>
-------	---

⑤事業目的	<p>【流域連携による清掃活動を通じた顔が見える関係づくり】</p> <p>環境美化は、環境を美化することに加え、自分たちの生き方も大きく左右する活動と位置づけ、環境美化という見える変化を通して、ポストコロナの中で顔が見える地域を活動を通して創り出す</p>
-------	---

⑥事業目標	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【定量目標】</p> <p>①流域での活動 ⇒ 1回/月 ②渡良瀬遊水地での活動 ⇒ 年2回 ③回収ゴミの量/景観変化</p> </td> <td style="width: 5%; text-align: center; vertical-align: middle;"> </td> <td style="width: 45%; vertical-align: top;"> <p>【定性目標】</p> <p>-活動が及ぼす参加者の変化を追跡調査- 参加者が、活動の場を通し、地域への考え方も変化させる過程を、アンケートを基に変容の推移を実施前後で確認する</p> </td> </tr> </table>	<p>【定量目標】</p> <p>①流域での活動 ⇒ 1回/月 ②渡良瀬遊水地での活動 ⇒ 年2回 ③回収ゴミの量/景観変化</p>	<p>【定性目標】</p> <p>-活動が及ぼす参加者の変化を追跡調査- 参加者が、活動の場を通し、地域への考え方も変化させる過程を、アンケートを基に変容の推移を実施前後で確認する</p>
<p>【定量目標】</p> <p>①流域での活動 ⇒ 1回/月 ②渡良瀬遊水地での活動 ⇒ 年2回 ③回収ゴミの量/景観変化</p>	<p>【定性目標】</p> <p>-活動が及ぼす参加者の変化を追跡調査- 参加者が、活動の場を通し、地域への考え方も変化させる過程を、アンケートを基に変容の推移を実施前後で確認する</p>		

⑦事業の方向性	<p>【この活動は、流域の多くの関係者の協力を得て初めて実施できる活動】</p> <p>地域社会が衰退する成立過程に影響を与えている地域に暮らす人々の思想・考え方と、まずは実働を通しながら向き合うことから取り組み、ともに実践活動を行う中で、これからの望ましい地域の在り方や、それを支える思想・考え方を深める</p>
---------	---

⑧事業の実行計画	<p>下記①～④までの役割担当を決め、週一で進捗状況を全員で共有し、問題点を解消する対応を取る</p> <p>【いつまでに・なにを・誰が・どのように】</p> <p>①年間活動スケジュール（実施日・時間・実施地区・区間等）を、開始の2か月前迄に設定 ②年間告知スケジュール（告知日・告知方法・告知エリア等）を、開始の2か月前迄に設定 ③流域の単位クラブ・団体への参加依頼（説明会、個別訪問）を、実施の都度2か月前迄に行う ④自治体に環境美化活動の支援を、書面を作成したうえで開始の2か月前迄に行う</p> <p>【現状把握すべき評価指標】</p> <p>⑤流域での継続的な活動 月1回 年12回 / 渡良瀬遊水地での活動 年2回</p>
----------	---

【事業の成果】

※期間：令和5年10月～令和6年3月

指標名	目標	実績	達成率
流域での活動回数(10月～3月)	6回	6回	100%

<参考> 静和川での6回の活動時には、流域（岩舟地区）のシニアクラブ、自治会、企業等から延べ150人以上の参加があった

【事業の効果】

項目	活動参加前	活動参加後	その他 概評
地域貢献活動について (N = 35人)	意識していなかった 3人	意識するようになった 3人	①流域の多くの関係者の協力を得て初めて実施できる活動であることが、ポストコロナの中で顔の見える地域を活動を通して創り出すことにつなげた ②これまで家族や地縁によって行われていた支え合い活動が難しくなっている現状を、改善していく取組のひとつとした ③実働を通じた多くの人との「発話環境」ができたことで、活動の仕手と受け手の往復運動が主流とならず、地域での面としての広がりや有機的な組織活動に発展した
	以前から、意識してたかどうか どちらとも言えない 3人	意識するようになった 3人	
	意識していなかった 1人	今後、意識するかどうか どちらとも言えない 1人	
	以前から、意識してたかどうか どちらとも言えない 1人	今後、意識するかどうか どちらとも言えない 1人	
	意識していなかった 1人	今後、意識するかどうか どちらとも言えない 1人	
	以前から、意識してたかどうか どちらとも言えない 1人	今後、意識するかどうか どちらとも言えない 1人	
地域社会を見直す きっかけになったかどうか (N = 35人)	とてもなった 16人 なった 15人 どちらとも言えない 4人		

※参加者：静寿会、自治会、商工会、土地改良区員、ライオンズクラブ、地元企業、自治体職員、ボランティア団体、社協職員へのアンケート結果より

⑨事業の成果と効果

【今後の展開】

静和川流域連携キャラバンは、流域の多くの方の協力を得て初めて実施できる活動
自分にとって大切な人との関係はどう創っていくのか？
人との関係はどう創り出すべきなのか？

一番人間が、地域の中で生きていく上で難しい問題に、日々真っ向から取組んでいる美化活動よりもむしろそこに本質があると思う位に、正面から地域にタックルしてきたこと自体に意義があるように感じている。このことが、活動の足腰を強める基盤となってきた

【課題】

今後も継続して一定以上の「活動の深さとか規模」を獲得するためには活動現場での「発話環境」を常態化することが求められている
それに付随して、活動の社会的価値、社会的意義を付加するためには、これから更に一定以上のエネルギーを地域に注ぎこんでいくことが重要

具体的には、流域のシニアクラブ・自治会・企業へのアプローチ（活動紹介）を頻繁に行い、多様な主体との連携のうえに成り立つ持続可能な活動としていく

⑩今後の展開・課題 (Next Step)

【開始時】

- 川を綺麗にして渡良瀬遊水地まで行くという、共有しやすくメッセージ性の高い目標を持つこと
- 実際にゴミを拾うことで、環境保護活動へ参加している満足感や連帯感が得られること

【展開時】

- ゴミの処理等、地元自治体をはじめとする、行政との連携がうまくいっていること
- 実施主体を複数の団体の連携の上に成り立たせること

【拡散時】

- 地域の協力も得て有機的な組織活動に発展させること
- 多機関と連携・協働し必要な行動や人財、ネットワークなどの社会資源を創り出すこと

⑪ここがポイント!

【活動の基本】

地域には何が必要かとともに、どのような人が必要か、この事に真剣に取組み、社会課題解決に向けた基盤や仕組みづくりに活かすこと

-地域の課題・問題に共同で取り組むために-

《気づいた視点》
越境×対話×共創

《気づいた行動》
さそう・まぜる・ひきだす・つくる・きめる

事例集
健康づくり・地域おこし

①申請団体名	とちぎ蔵の街シニアクラブ連合会 栃木支部 箱森東部シニアクラブ	②分野	健康づくり・地域おこし
③事業名称	R60 みんなが学んで・体験して・教えて、地域で活躍! - eスポーツがつくる小地域ネットワーク活動!! -		
④事業概要	<p>【eスポーツを高齢者の心身の機能維持に活用する取り組み】</p> <p>自治会公民館を会場とし毎週曜日を決めてeスポーツを開催。新しいことに挑戦することは日常生活に変化と刺激を生み、継続参加へのモチベーションを高める。自分たち（会員）で始めて、習得して、他の団体（学童クラブ・他のシニアクラブ・高齢者施設等）にも広め、小地域のネットワークづくりも試みる</p>		
⑤事業目的	<p>【eスポーツを使用したつながりによる健康志向の場づくりと社会的孤立の防止】</p> <p>①高齢化するシニアクラブ活動への新たな魅力づくりと、フレイル・認知症予防 ②高齢者の引きこもり予防 ③ゲームをプレイする事が家族内で子や孫との話題になり、会話が一層充実することも期待する</p>		
⑥事業目標	<p>【定量目標】</p> <p>①eスポーツ 開催回数 （1回以上/週） ②地域への活動内容の発信 （自治会回覧板での掲載） ③シニアクラブ員の新規加入促進</p>	<p>【定性目標】</p> <p>-活動が及ぼす参加者の変化を追跡調査-</p> <p>①eスポーツ後の体力テスト等で改善効果の推移を捉える ②他の団体との組織的推進も図り、小地域でのネットワークづくりも試みる</p>	
⑦事業の方向性	<p>【<単位クラブで始める> ⇒ <習得して地域に広める> ⇒ <広域で開催>】</p> <p>少子高齢化が進み、祭りなどへの参加者も減っている。高齢者が外に出るきっかけを増やすため、まずは単位クラブで始めて、自分たちで楽しめるようにし、自治会内地域に広める。その後、他の団体（学童クラブ・他のシニアクラブ・高齢者施設等）にも広め、小地域のネットワークづくりも試みる</p>		
⑧事業の実行計画	<p>下記①～⑤までの役割担当を決め、全員で共有し、問題点を解消する対応を取る。</p> <p>【いつまでに・なにを・誰が・どのように】</p> <p>①クラブ内でスタートアップメンバーを募集し、決定する ②採用するアプリの選定 アプリごとのリーダーを決定する ③機器・アプリの購入（アプリは数種類を採用する） ④クラブ内でデモンストレーションし、アプリごとのメンバーを決定する ⑤毎週開催した結果をスコアカードに記録し、年度末に集計する ⑥年に数回、参加者からの意見ミーティングを開催し、※必要な変更を行う ⑦以上の進捗を見て・自治会回覧文書等でシニアクラブ加入促進をPRする ⑧継続性を確保するため、ゲームごとの表彰制度を設ける ゲーム上達のための講習会やトレーニング等の企画も検討</p> <p>※地域の小学生を招待し、小学生を交えての競技イベントを開催する</p>		

⑨事業の成果と効果

【事業の成果】

事業名	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	達成度合	活動に関わった団体・組織
eスポーツ体験会	○							達成	自治会、他市の老連事務局、他市単位クラブ、市老連事務局、県スポーツ振興課、箱森東部シニアクラブ
認知症予防チェック		○				○	○	達成	栃木市包括支援センター、箱森東部シニアクラブ
eスポーツデモンストレーション		○	○					達成	サポート業者様、箱森東部シニアクラブ
地域への情報発信					○			達成	自治会、隣接自治会、育成会、児童・生徒、民生委員
新規会員+3名以上				1名	1名			-	自治会、箱森東部シニアクラブ

※新規会員の増加はモデル事業実施期間内の目標

【事業の効果】

測定項目	単位	令和5年10月16日	令和6年2月19日	差異
TUG	秒	7.34	6.46	+ 0.88
握力(右)	kg	22.79	20.97	- 1.82
握力(左)	kg	22.12	21.16	- 0.96
片足立位時間	秒	41.63	25.02	- 16.61
5m歩行	m/秒	2.85	2.64	+ 0.21
主観的健康感	-	2.56	3.00	+ 0.44

・TUG(Timed Up & Go Test)⇒歩行能力や動的バランス、敏捷性などを総合的に判断する評価方法

※改善効果の推移はモデル事業実施期間内の目標

⑩今後の展開・課題
(Next Step)

【今後の展開】

- ①地元への親和性は高いため近隣地区への波及は声掛けの内容・回数に比例する
- ②キーは高齢者の習熟度よりもヘルスケアの一環として取り組む姿勢
- ③現状、公民館でのeスポーツ使用は会員限定だが、定期的な一般開放も必要
- ④イベント開催時には初めて公民館に来た人も出て来ていて、交流の誘因になっている

【課題】

- ①気兼ねなく誰でも来れる場所にする事ができれば、「まるごと多世代の地域ステーション」として機能させたい
- ②当クラブが中心となって、誰でもeスポーツを通して交流ができるようにし、その中の選出メンバーが、他の地域とのリモート対戦時の選手として参加できるような仕組みを作っていきたい

※公民館が「まるごと多世代地域ステーション」として気軽に来れるような場所になれば、それをきっかけとしてつながり、そのつながりの中から支援が必要な人を相談支援につなぐことや、来れなくても必要であればいつでもつながることができるような関係性の構築ができる場所がきっと出来る。今は人と地域がかかわるきっかけ作りが重要

⑪ここがポイント!

☆事業の開始時・展開時・拡散時に行うこと☆

【開始時】

- ・自治会、地域との連携（公民館へのwifi設置、モニターの設置等）が必要

【展開時】

- ・実施時には同時に複数のゲームを展開するなどの賑わいも必要
- ・eスポを娯楽と捉える一方、高齢者のヘルスケア活用とする認識も広めることが良い

【拡散時】

- ・そのためには、エビデンスの蓄積とeスポをスポーツとして広める手段が必要
- ・手段としてはeスポを行う別クラブ（遠隔地でも可）との対抗戦の早期開催

【活動の基本】

- ・参加率を高めるためには、日頃から活動の参加率も高めておくことが基本となる

【IT機器への苦手意識解消のためのポイント】

- ・セッティング手順書や操作マニュアルはわかりやすく図にして配布する
- ・手順書等は会員各位にもらミネートして渡し、会場にも大きなものを同様に設置する
- ・機器の設置方法、操作方法は役割担当者を決め会員に教えられるようにする
- ・こういったクラブ員同士の役割分担が場を賑わし、継続するためには欠かせない要素

-地域の課題・問題に共同で取り組むために-

《気づいた視点》
健康×集まり×笑顔

《気づいた行動》
たのしむ・わらう・はっさん・みとめる・はなす

事例集
防災・地域安全活動

①申請団体名	足利市老人クラブ連合会 川崎町曙クラブ	②分野	防災・地域安全活動
--------	------------------------	-----	-----------

③事業名称	持続可能な3世代コミュニケーションの提供と地域再発見 -いつまでも笑顔でいるために! すまいる・シェアリング KAWASAKI! -
-------	---

④事業概要	【出会い・交流の場の提供で持続可能な3世代コミュニケーションを実現】 「マルシェ（青空市）」や「3世代交流」を主軸に地域への愛着心や貢献意欲を高め、付随して行う「歴史・文化などを巡る散策ウォーキング」、「ゴミステーションの見回りパトロール」で、持続可能な3世代コミュニケーションを継続して提供できるクラブの組織強化を目指す
-------	--

⑤事業目的	【出会い・交流の場の提供による地域の連帯感の高まり】 少子高齢化が進展している中、地域の人たちに向けてのコミュニケーション機会を提供することで、地域内の他の家族を含めた出会いや交流を生み出し、いざという時に一致団結する地域の連帯感を高める
-------	--

⑥事業目標	【定量目標】	【定性目標】
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミステーション見回りパトロール 1回/月 ・文化財巡りウォーキング 1回/年 ・マルシェ 2回/年 ・3世代交流 1回/年 	-活動が及ぼす参加者の変化を追跡調査- 参加者の心が、交流の場を通し、地域への考え方も変化させる過程を、アンケートを基に変容の推移を実施前後で確認する

⑦事業の方向性	【いざという時に一致団結する風土を未来に伝承する地域の連帯感情勢への取組】 地域のつながりが希薄になる中、2019年の台風19号で浸水被害に遭った教訓から、今後の災害に備えるため、地域の人たちに向けてのコミュニケーション機会を提供し、地域の連帯感の醸成に取り組む
---------	--

⑧事業の実行計画	単位クラブ内で下記の役割担当を決め、進捗状況を全員で共有し、問題点を解消しながら実施する																															
	【いつまでに・なにを・誰が・どのように】																															
	<マルシェ・3世代交流> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>実施方法の検討や会場の確保</td></tr> <tr><td>2</td><td>キッチンカーの選択</td></tr> <tr><td>3</td><td>餅つき道具・ガス器具等の提供依頼</td></tr> <tr><td>4</td><td>チラシによる地域への周知（広報）と参加者募集</td></tr> <tr><td>5</td><td>自治会、育成会、サロンへの協力要請</td></tr> <tr><td>6</td><td>保健所や消防署への届け出</td></tr> <tr><td>7</td><td>食材（もち米・焼きそば等）、食器などの調達</td></tr> </tbody> </table>	No.	項目	1	実施方法の検討や会場の確保	2	キッチンカーの選択	3	餅つき道具・ガス器具等の提供依頼	4	チラシによる地域への周知（広報）と参加者募集	5	自治会、育成会、サロンへの協力要請	6	保健所や消防署への届け出	7	食材（もち米・焼きそば等）、食器などの調達	<ゴミステーション見回り・文化財巡りウォーキング・クリーン作戦> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>実施エリアの選定</td></tr> <tr><td>2</td><td>経路・所要時間の設定</td></tr> <tr><td>3</td><td>文化財マップをもとにしたウォーキングマップ作り</td></tr> <tr><td>4</td><td>チラシによる地域への周知（広報）と参加者募集</td></tr> <tr><td>5</td><td>自治会、育成会、サロンへの協力要請</td></tr> <tr><td>6</td><td>ゴミ袋、ゴミキャッチャー等の調達</td></tr> </tbody> </table>	No.	項目	1	実施エリアの選定	2	経路・所要時間の設定	3	文化財マップをもとにしたウォーキングマップ作り	4	チラシによる地域への周知（広報）と参加者募集	5	自治会、育成会、サロンへの協力要請	6	ゴミ袋、ゴミキャッチャー等の調達
	No.	項目																														
1	実施方法の検討や会場の確保																															
2	キッチンカーの選択																															
3	餅つき道具・ガス器具等の提供依頼																															
4	チラシによる地域への周知（広報）と参加者募集																															
5	自治会、育成会、サロンへの協力要請																															
6	保健所や消防署への届け出																															
7	食材（もち米・焼きそば等）、食器などの調達																															
No.	項目																															
1	実施エリアの選定																															
2	経路・所要時間の設定																															
3	文化財マップをもとにしたウォーキングマップ作り																															
4	チラシによる地域への周知（広報）と参加者募集																															
5	自治会、育成会、サロンへの協力要請																															
6	ゴミ袋、ゴミキャッチャー等の調達																															
※各事業実施の2カ月前の定例会で、下記①～⑤の項目について打合せを実施 ①実施スケジュール、②準備物、③役割担当、④情報発信方法、⑤その他届出関係や来場者アンケート内容等 また、実施一週間前には再度定例会を行い、会場整備（花を植えたりして綺麗に等）と準備の最終確認を実施																																

⑨事業の成果と効果

【事業の成果】

事業名	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	達成度合	活動に関わった団体・組織
マルシェ	○							達成	川崎町曙クラブ、自治会、育成会、老人施設、障害者支援施設、学童保育施設
3世代交流				○				達成	
ゴミステーション見廻り		○	○	○	○	○	○	達成	川崎町曙クラブ
散策ウォーキング							○	-	川崎町曙クラブ、自治会、育成会
クリーン作戦							○	-	

【事業の効果】

事業名	事業参加前	事業参加後	活動に関わった団体・組織
	地域活動の必要性を意識しない人		
マルシェ (N=85人)	18人	2人	川崎町曙クラブ、自治会、育成会、老人施設、障害者支援施設、学童保育施設
3世代交流 (N=38人)	3人	0人	
散策ウォーキング	3月24日実施予定		川崎町曙クラブ、自治会、育成会
クリーン作戦			

※マルシェ、3世代交流は一般来場者へのアンケート結果より

⑩今後の展開・課題 (Next Step)

【今後の展開】

3世代交流は、「持続可能な3世代コミュニケーションの提供と地域再発見」をテーマに行ったものだが、この交流会を通して地域みんなで地域のことを見つめ、地域の団結に向かう何かとても大切なものが感じ取れ、子どもたちも高齢社会に対して高い意識を持つ、とても良いきっかけにもなっている

今後は、過去の被災教訓も生かし、自治会、育成会、福祉施設等の地域資源と連携しながら、防災・減災を目的とした体験学習における炊き出し体験、救命法、身の回りの危険個所の確認、避難所における障害者等への対応等の「地域内防災・減災について」の学習も、地域の誰でもが気軽に参加しやすいことに配慮しつつ実施を試みる

【課題】

- ・地域に関心のない人
- ・地域から孤立している人
- ・その人たちとの交流方法

【対応案】

- ・役割分担の明確化 → 決め事を作って体験を積み重ねてもらうこと
- ・マニュアル必須 → 決め事が実施できたら地域で肯定すること
- ・多様な行動様式 → 地域に価値提供して喜ばれるところまでイメージしてもらうこと

⑪ここがポイント!

☆事業の開始時・展開時・拡散時に行うこと☆

【開始時】

- ・地域交流事業の目的を、地域の連帯感・団結力の高まりをゴールとしている
- ・高齢者以外にも、子ども、子育て世代、地域資源を交えた交流の場を設定し、その場に相応しい催し物を行い、多世代を集めている

【展開時】

- ・地域施設（障がい者施設、大久保分校スタートアップミュージアム）と連携し老人クラブと自治会が協力し合い「マルシェ」、「3世代交流」を行っている

【拡散時】

- ・川崎町自治会館で地域を活性化させるための意見交換会を定期的に行っている
- ・川崎町曙クラブや自治会の役員自らが、会員の互いの成果を褒め、尊重することで、誰もがどんな意見でも出しやすい雰囲気を出している

-地域の課題・問題に共同で取り組むために-

《気づいた視点》

風土×歴史×人

《気づいた行動》

きづかう・のこす・じしん・れきし・つなげる

大谷福寿会 活動写真

活動の内容は3ページをご覧ください



簡単そうで難しいヨ、指体操・・・！



ガンバレ、おてっちゃんゲーム！



輪投げのルール説明！



狙いはバッチリ！



次の数字でビンゴ!?!



ビンゴ、良かったネ！

日野町いきいきクラブ 活動写真

活動の内容は6ページをご覧ください



グラウンドゴルフって難しい？



「さつま芋とったぞー」のご一家！



県道の花壇にもお花を！



シニアと子どもが力をあわせて！



ミニ門松で新年を迎えます！



どんど焼き！まゆだまを炙る！

日光地区連絡協議会 活動写真

活動の内容は9ページをご覧ください



これから決勝戦を行います！



休憩中の談話「どこの出身？」



“なかなか上手いもんだ”！



“高校生と話ができて嬉しい”！



“鍬を入れるから手を出さないで”！



日光の郷土料理「柿もち」づくり！

喜沢中部喜楽会 活動写真

活動の内容は12ページをご覧ください



開始1時間で120人分完売の人気！



子どもたちもたくさん来てくれました！



焼きながら・話しながら・笑いながら・たこ焼きランチ会！



桑の葉の効能に関心が寄せられています！



桑の入りパスタ！(他に蒸しパン・天婦羅・餃子も)



地元テレビ局の取材にも桑の葉茶で応えます！

芳賀町シニアクラブ連合会 活動写真

活動の内容は15ページをご覧ください



グラウンド・ゴルフデビュー！



初めて・でも・まっすぐ・転がってます！



みんなで・盛り上がりました！



子ども×シニアクラブ=なごんです！



これが・輪投げのフォーム！



学校周辺の美化活動も行いました！

静寿会 活動写真

活動の内容は18ページをご覧ください



時にはロープを使って・川へ入ります・やります！



川の中に・発電機・3台も！



-活動前- ゴミによるよどみが発生！



-活動後- よどみは解消！



チェーンソーで・倒木も撤去します！



切り株は・力を合わせて・引き揚げます！

箱森東部シニアクラブ 活動写真

活動の内容は21ページをご覧ください



学んで・やってみたら・できました！



一緒だと・楽しい・笑いがおきます！



自分達だけでも・できる・ようになりました！



クリアする人も・出てきました！



スポーツ系もあります！



子ども達は・鬼むす・クリアします！

川崎町曙クラブ 活動写真

活動の内容は24ページをご覧ください



マルシェで・3世代・輪投げ！



誰もが・気軽に・交流！



綿密な・企画・打合せ！



川崎町の歴史講座×育成会＝3世代交流！



世代を超えて・ふるさと・レシピ！



世代を超えて・こころに響く・餅つき！



生涯現役シニア 応援センター ぷらっと

掲載事例に関する連絡先(連絡可)
とちぎ生涯現役シニア応援センターぷらっと
Tel 028-623-1291
栃木県宇都宮市駒生町3337-1
とちぎ健康の森2階
E-mail : shougaigeneki-p@tochigirouren.or.jp